

環境保全功労者功績内容等

氏名・年齢・住所・職業	功 績
<p>山里 清 やまざと きよし</p> <p>琉球大学名誉教授 名桜大学名誉教授</p>	<p>山里氏は、サンゴの研究でPh.D(博士号/University of Hawaii)を取得後、琉球大学及び名桜大学において、長年にわたり生物学、環境科学関連科目を教授するとともに、特にサンゴを中心としてサンゴ礁無脊椎動物の生理・生態学及びサンゴ礁保全や有効利用に関する環境生態学などの幅広い分野で、研究に関わり、我が国のサンゴ礁の保全に多大な貢献をしてきている。</p> <p>平成8年、亜熱帯地域、島嶼地域等の有する諸問題等に関し、国際的視野に立って学際的、総合的に研究する事を目的として設立された「亜熱帯総合研究所」の設立・整備及びそれらの管理運営に当たっては、長年に渡り中心的役割を果たし、我が国におけるサンゴ礁研究の拠点を整備するとともに、国際的研究・教育交流のシステムを確立した。</p> <p>また、同研究所所長として熱帯・亜熱帯の総合的研究を推進・指導し、アジア・太平洋地域の抱える環境問題に対応した国際的な学術会議の開催や研修活動を推進し、日本及びアジア太平洋地域のサンゴ礁保全分野における学術・研究の振興に多大な尽力をした。</p> <p>平成9年から平成17年までの8年間は日本サンゴ礁学会の初代会長として、サンゴ礁の研究分野における基礎を築くとともに、沖縄国際マングローブ協会会長の他、各種行政機関や研究機関の委員会などの活動を通じ、我が国のサンゴ礁の研究、保全に多大な貢献をした。</p> <p>特に2004年の第10回国際サンゴ礁シンポジウムの国内誘致、準備、運営においては、大会会長として多大な貢献があった。</p> <p>著書は、『サンゴの生物学』(東京大学出版会)、『海洋生態学』(東京大学出版会)、『単体サンゴクサビライシの石灰化と環境要因』があり、研究者等に広く普及している。</p>

地域環境保全功労者功績内容等

県 別	氏名・年齢・住所・職業	功 績
九州事務所	<p>松浦 茂雄 まつらら しげお</p> <p>NPO法人 九州環境カウンセラー協会理事長</p>	<p>平成8年環境カウンセラー制度発足と同時に九州一円の環境カウンセラー(事業者部門)に呼びかけ、技術者集団として地域環境保全活動に取り組み、またISO14001登録支援、内部監査委員育成などに努めてきた。</p> <p>平成16年度より環境省(当時は環境庁)主催の「環境活動評価プログラム(現在のエコアクション21)普及セミナー」の受託業務を実施、九州域内の協会会員を結集して地域中小事業者の環境経営システムの導入を促進した。爾来17、18、19年度と継続して受託業務を実施し、18年度、19年度には地方自治体イニシアティブに協賛して、エコアクション21(EA21)認証取得支援業務を展開してきた。受講事業者は約400社に及び、認証取得事業者も逐次増加している。</p> <p>他方、日本技術士会九州支部第六部会長として、経営、情報及び環境部門技術士による勉強会や見学会を主査し、いわゆるCPD活動を展開している。</p>
福岡県	<p>牛頭ホタル部会 うしくびほたるぶかい</p> <p>会長 戸渡 慧 会員33名</p>	<p>昭和60年に大野城市まちづくり懇談会(市民のまちづくり提言の自主組織)より、自然環境の観点からゲンジボタルを核としたまちづくりの提言を受け、環境保全活動を通じた自然生物の保護を目的として、大野城市牛頭地区で牛頭ホタル部会を設置し、取組を始める。</p> <p>牛頭川の清掃やホタルの幼虫の餌となるカワニナの補給、増殖、ホタルの幼虫の飼育等の会員(地元住民)による地道な活動により、大野城市内で唯一牛頭川にしか残っていないゲンジボタルの保護、繁殖に努めており、牛頭ダム完成後激減していたゲンジボタルの発生数も徐々に回復している。</p> <p>また、牛頭川の保全のため、カジカカエルの飼育等も行っている。</p> <p>長年にわたる会員の地道な活動により、福岡都市圏では有数の「ホタルの名所」となっており、シーズンには毎年2000人くらいの見物客がおとずれる。</p> <p>現地では、会員により、ホタルについての説明や見物マナーの指導、ホタル保護の呼びかけなどが行われ、ホタルの保護に関する普及啓発も積極的になされている。</p> <p>平成17年4月下旬には、県によりカワニナの飼育場が整備されたが、これも牛頭ホタル部会の地道な活動の成果の一つと考えられる。</p> <p>また、特に、地域のために、地域住民が自主的に始めた取組であり、その点でも非常に評価に値する。</p>
福岡県	<p>福津市地域婦人会 ふくつしちいきふじんかい</p> <p>会長 岩佐 礼子 構成員150名</p>	<p>1. 河川浄化について</p> <p>昭和50年代から河川の浄化活動として、食廃油を集め石けん作りに取り組み始めた。</p> <p>その後、衛生組合の支援を受けた石けん製造釜を購入して、本格的に粉・固形石けん作りに取り組み、町民への普及のために、赤ちゃんの誕生祝いとして贈呈した。また、いろいろなイベントで販売している。</p> <p>平成8年には、福岡町が新築した「石けん工房」を使用して、「石けんづくり体験教室」を開催して、高校生や町民との交流を通して河川の浄化活動の啓発を行っている。また、石けんにEM菌を添加したり、「又ぜー石けん」「エコびか石けん」などを付けるなど、その普及のために工夫を重ねている。</p> <p>平成7年度から3年間、福岡町補助事業としてゴミ減量化推進パイロット事業を婦人会が主体となって実施して、EMぼかしを使い、生ゴミを肥料に変え、液肥を浄化槽や河川に流すことにより河川の浄化を図っている。さらに、生ゴミ減量化のためのリサイクル活動になっている。補助終了後も継続して活動を行っている。</p> <p>2. 河川の環境保全について</p> <p>平成3年に婦人会が主体となって「西郷川を守る会」を設立し、西郷川の護岸1kmに渡ってアジサイを植樹して、毎年、草刈りや手入れを行い河川の環境保全に努めている。</p> <p>3. その他</p> <p>平成3年からゴミ減量の推進としてマイバッグ運動に取り組んでいる。また、市の分別リサイクルと別に古布、古紙、アルミ缶等の回収に努めている。</p> <p>このように一貫した活動の姿が市民の共感を得、環境の浄化・保全に多くの貢献をしている。</p>

地域環境保全功労者功績内容等

県 別	氏名・年齢・住所・職業	功 績
熊本県	環境ネットワークくまもと かんきょうネットワークくまもと 代表 原田 正純 構成員280名	熊本県内の環境保護活動に取り組む団体や個人をゆるやかにつなぐネットワークとして、相互の情報交換を通して会員や一般市民に各団体の活動紹介や環境情報の提供を行いながら、市民による主体的な環境保全活動の普及に取り組んでいる。講演会や学習会、自然観察会などの啓発活動、県内外の環境NGOと連携した調査・研究の実施、調査に基づく政策提言、更に行政や企業とのパートナーシップを深める活動等を幅広く展開している。これらの活動を通して環境保全活動の深化と拡大を図り、市民参画を可能にするプロセスを確立するとともに、行政や事業者との協働による持続可能な地域社会の実現を目指している。 行動指針と具体的活動内容 ①環境保護に取り組む個人・NGOのネットワーク：グリーンコンシューマー活動による商品や企業の環境対策調査、ガイドブックの発行、温暖化防止市民会議を立ち上げ、地域独自の温暖化防止行動普及活動を展開している。また、熊本県内初市民共同発電所「かんくまおひさまプロジェクト」を展開し、調査を通して環境に配慮した自治体づくりを支援する10年継続プロジェクト「日本の環境首都コンテスト」を他団体と共に実施している。 ②市民への環境問題の啓発活動：「教師のための環境学習プログラム」や「参加体験型で学ぶ環境学習」の実施及び「自然観察会」や「棚田での田植え・稲刈り体験プログラム」等を実施している。 ③行政・企業・NGOとのパートナーシップ：「熊本市環境総合計画」策定への参加とその推進組織「エコパートナーくまもと」の発足に尽力するとともに、各ワーキンググループ活動へも積極的に参加している。また、ソニーセミコンダクタ九州(株)との共同事業「地下水涵養プロジェクト」を企画し、企業・行政・NGO・地元農家との連携による水田涵養事業を実施している。 活動の効果として、「かんくま」という愛称で熊本県内外でも認知度が高まっている。行政や企業との信頼関係も深まっており、市民活動と行政をつなぐ中間支援組織としての機能が定着してきている。また、環境都市づくりを目指す自治体から個別の研究会への協力を依頼されたり、毎年、九州地区自治体交流会を実施している。
熊本県	次世代のためにがんばる会 じせだいのためにがんばるかい 代表 松浦 ゆかり 役員3名 構成員26名	当団体は、次世代を担う子どもたちを中心に考え行動を起こす必要性から、子どもたちへの環境教育の実施及びその方法についての提言や調査研究、普及啓発や交流等を実施することにより、環境教育及び環境保全に寄与することを目的として発足した。市民、行政職員、北九州市立大学准教授、八代工業高等専門学校講師及び学生との民官学の協働・連携のもと、以下の活動を行っている。 【かき殻祭り】ホタルが乱舞する川を目指し実施されるかき殻投与による河川浄化活動。河川浄化を通して子どもたちへの環境保護に対する意識啓発と、多数の人々の協働により地域社会の活性化を図る。活動は1000人規模。 【ピースろうそくやっちょろ版】家庭の電気を消して廃油ロウソクを灯し、環境について考えるイベント。環境3団体による共同主催 【水無川一斉清掃】市内を流れる水無川流域で、14小・中学校参加による一斉清掃活動。 【新川の日】毎月第3水曜日に新川の清掃活動を八代市立宮地小学校の児童と実施。 【環境出前授業】小・中学校の依頼を受け、環境劇・環境クイズ等を取り入れた授業を行う。 【「大島」浜辺の大掃除大会】八代市と共催。小学校でごみが海に及ぼす影響についての授業を行い、その後、海岸の清掃活動や宝探しを実施。 【ライトダウンinやっちょろ】市民が15分間家庭で消灯し家族で語らいの場を持つイベントの企画を担当。 【児童による川のごみパトロール隊】八代保健所共催により、市内3小学校と児童と川辺のごみ調べやごみマップを作成し、大人に対してのごみ問題に関する啓発を行う。 各種取組を通して、自然の生態系を護ることの大切さや生き物に対する感謝の心を伝える活動になってきた。地域の大人から子どもまで幅広い年齢層のコミュニケーションが図られとともに、自然を愛する子どもの変容を通して、大人の方も変わってきたという声が寄せられている。
大分県	小田 毅 おだ つよし 環境カウンセラー	多年にわたり、大分県内の森林植生に係る調査研究を行うとともに、環境カウンセラー及び大分県環境教育アドバイザーとして、これらの研究成果及び専門知識を活かした各種講習会における講演や、自然観察会の指導に従事するなど、自然保護、環境保全意識の普及啓発及び環境学習の推進に尽力している。 また、県及び市の環境保全に関する各種審議会委員等として、環境行政の推進に寄与するとともに、大分県版レッドデータブックの作成にあたっては、種子植物の調査に携わり、その完成に大きく貢献した。

地域環境保全功労者功績内容等

県 別	氏名・年齢・住所・職業	功 績
宮崎県	<p>綾町水を守る会 あやちょうみずをまもるかい</p> <p>会長 中原ケイ子 構成員約2,200名</p>	<p>本会は、町内の①自治公民館婦人部、②地域婦人部、③JA綾女性部、④商工会女性部、⑤高年者女性部、⑥有機農業婦人部、⑦日赤奉仕団綾支部、⑧自然環境保全審議会委員、⑨石けんづくり指導員の会員で構成し、数多くの動植物の命を育んでいる自然生態系を守り、将来の世代に引き継いでいくことを目的に、水を守る（＝生活雑排水の浄化）運動を推進している。</p> <p>夏季の夜間に、町内全地区（22地区）の自治公民館を巡回して「地区座談会」を開催し、「水といのち」の問題をテーマにした環境ビデオを上映したり、廃油から固形セッケン、粉セッケンを作ったり、米のとぎ汁のEM発酵液、EMボカシづくり等を実演・指導するなど、生活雑排水の浄化に係る知識の普及に尽力している。</p> <p>また、町内の小学校に出向き、米のとぎ汁のEM発酵液づくりの実習を指導したり、アクリルタワシの作成を実演・指導するなど、次の世代の担うこども達に対する環境教育も推進している。</p> <p>さらには、会員が作った米のとぎ汁のEM発酵液を、イベントへの来場者や町内の事業者に無料で配布したり、会員が実際に排水溝等へ投入するなど、生活雑排水浄化の実践活動に積極的に取り組んでいる。</p>

地域環境美化功績者功績内容等

県 別	氏名・年齢・住所・職業	活 動 内 容		功 績
佐賀県	<p>フラワーラフ編 ふらわーらぶへん</p> <p>代表者 石丸 文子</p> <p>構成員18名</p>	<p>対象活動 従事年数 年間活動日 活動範囲</p>	<p>公園の緑化美化ボランティア活動 15年 通年 昭栄公園</p>	<p>「フラワーラフ編」が美化活動を行っている「昭栄公園」は、佐賀市の南西部に位置する都市公園（街区公園）で広さは約4,100㎡、公園内には約150㎡の大きな花壇がある。</p> <p>「フラワーラフ編」は、子どもたちが遊ぶこの公園に美しい花を咲かせ、心豊かに成長することを願い、また、人との関わりが希薄になっている近年、花壇づくりを通して人の輪をつくり、道行く人々にも花を見て心が癒されればとの思いから花壇作りを始められた。</p> <p>平成5年の活動開始以来、花壇は毎年5月と10月に植え替えを行い、約1,500本の季節の花々が色鮮やかに公園を彩っているが、これには日夜、水遣りや除草などの維持管理と公園内外の清掃活動を会員が熱心に取り組んでいるからである。</p> <p>なお、佐賀市では公園を養子にみても、里親の気持ちになって愛情を持って清掃活動も行ってもらうボランティアを登録する「アダプト・プログラム」を平成15年より取り組んでいるが、「フラワーラフ編」は平成5年の活動開始時から既に「昭栄公園」の里親として15年も継続して活動を行っており、他の「アダプト・プログラム」の登録ボランティアの模範となっている。</p>
熊本県	<p>玉東町立山北小学校</p> <p>ぎよくとうちょうりつやまきたしょうがっこう</p> <p>校長 高田 廣</p> <p>児童119名 職員12名</p>	<p>対象活動 従事年数 年間活動日 活動範囲</p>	<p>①植樹、植栽等の緑化運動 ③公園、道路等の清掃活動 ④緑化、浄化、清掃その他の美化思想の普及啓発活動</p> <p>20年（1989年～2008年） 通学路のごみ拾いが年10回、公園等の清掃が年3回 校区内</p>	<p>ふるさとを自然を愛し、環境を大切にしようとする豊かな心と主体的に地域に働きかける子どもを育てることを目標に、①環境教育の視点を明確にした授業、②地域の特色を生かした体験活動、③家庭や地域との連携活動の3つを中心に、地域と連携した環境教育を実施している。その中でも、②地域の特色を生かした体験活動は、子どもたちが話し合いを行い計画を立て実践している。1年生から6年生までの縦割りメンバーで活動であり、協力、思いやり、責任を必要とする。特にボランティア活動では、地域の環境美化活動として県内学校の模範的活動となっており、次の3つの取組を行っている。</p> <p>①愛郷活動：自分たちを育ててくれるふるさとに感謝の気持ちを持ち、ふるさとを大切に育てることを目的として、毎年秋に地域の清掃活動を実施し16年間続いている。5、6年生の児童が中心となり、清掃場所を決め道具を準備して活動を実践している。全校児童が7つの地区に分かれ、公園や湧水池など地域のシンボリックな場所及び日頃お世話になっている場所の清掃や栽培活動に取り組んでいる。</p> <p>②地域クリーン活動：地域に主体的に働きかける態度を養うことを目的に、校内・校外における奉仕活動の計画を立て、活動している。</p> <p>③きれいなふるさと大作戦：地域の環境美化に目を向けることを目的に、登校班ごとに、毎月5日は空き缶拾い、15日はごみ拾いを行っている。班長や副班長が中心となり、通学路の清掃活動を行いながら登校している。拾ったごみ等は、学校玄関にコンテナを準備し、分別作業を行っている。</p> <p>以上のボランティア活動を通して、地域を歩き、地域の人々にふれ合いながら、児童のふるさと山北を愛する気持ちが高まり、自分たちも地域に貢献できるという気持ちを持つに至っている。</p> <p>また、PTA、地域、学校との連携組織「森の学校」は、学校が行う環境教育をサポートしており、会員によって整備された学校裏の林「山北っ子の森」及びその中にある会員手作りの「東屋」や「炭焼き小屋」では、夏休みに「親子自然体験教室（巣箱づくりや炭焼き体験等）」を開催し、児童が自然に親しむ場を提供している。</p>

地域環境美化功績者功績内容等

県 別	氏名・年齢・住所・職業	活 動 内 容	功 績
熊本県	<p>熊本市立託麻原小学校</p> <p>くまもとしりつたくまばるしょうがっこう</p> <p>校長 白河部 健</p> <p>児童858名 職員46名 保護者620名</p>	<p>対象活動 ①植樹、植栽等の緑化運動 ④緑化、浄化、清掃その他の美化思想の普及啓発活動</p> <p>従事年数 学校創立以来56年間</p> <p>年間活動日 緑の少年団活動が週3回、年100回 学校林活動が年2回、一人一鉢の草花栽培が学年毎に年2回</p> <p>活動範囲 校区内及び学校林</p>	<p>昭和29年の学校創立以来「みどりの教育」が展開されており、活動範囲も広く、その内容も多岐に及ぶ。「みどりの教育」とは樹木や草花だけでなく、虫・鳥・土・風・光などのあらゆる自然環境を「みどり」と捉え、「みどりを守り育て、豊かな自然観を養うこと」を目標に様々な環境教育活動や環境緑化活動に取り組んでいる。昭和59年結成の「託麻原緑の少年団」の活動や20年以上に及ぶ学校林活動、関係機関と連携した森林環境学習は大きな特色の1つである。また、平成16年度より学校版ISO活動の取組もスタートさせ、環境美化のためのゴミの減量、節電、節水の活動も学校全体で行っている。</p> <p>【緑の少年団活動】: 日常の活動は学校を拠点に草花の栽培や樹木の世話・校庭の環境整備を行っている。その他に探鳥会に出かけたり、街頭での募金活動に参加したりして、奉仕活動にも積極的に参加している。学校での環境学習の中心的役割を担っている。</p> <p>【学校林活動】: 昭和61年に五木村の山林を借り受け植樹をしたことを始まりとする。毎年森の手入れを兼ねた森林キャンプを実施し、下刈りや枝打ち・間伐などの作業を行っている。</p> <p>【一人一鉢の草花栽培】: 各学年、年間2種類の草花を全校児童で栽培している。土づくり・種まき・さし芽等、教師の指導の下、児童の手によって行われている。</p> <p>【愛校作業】: 日常の清掃はもとより、月に一回の外庭掃除週間等で適宜愛校作業の時間を設定し美化活動を行っている。6年生はクリーンボランティアとして自主的に正門付近の清掃活動を行っている。環境教育を進めるにあたり、学校教育の全活動を見直し、必要があれば専門機関との連携も回り、より高い効果が得られるよう計画的な実践が進められている。また、サイネリアの花鉢のプレゼントは日頃お世話になっている地域の方へのお礼の気持ちから行われているものであり、10年以上活動が続いている。地域への環境美化の啓発も兼ねた、子どもたちと地域とのよい交流のきっかけともなっている。平成18年度には「熊本県学びの森活動推進事業」の助成を受け、より地域・PTAとも連携を深め、身近な環境に親しみ、学び、行動する児童の育成に力を入れている。</p>
大分県	<p>玖珠町立八幡小学校</p> <p>くすちょうりつやはたしょうがっこう</p> <p>校長 工藤順子</p> <p>児童80名 教職員14名</p>	<p>対象活動 空き缶回収、河川の清掃及び環境学習への取り組み</p> <p>従事年数 19年</p> <p>年間活動日 毎週1回(空き缶回収)</p> <p>活動範囲 玖珠町八幡地区</p>	<p>平成元年より、毎週金曜日に空き缶(アルミ缶)回収活動を行っており、回収したアルミ缶については、換金後に車椅子や介護ベッドを購入し、町や社会福祉施設等に寄贈するなど福祉活動も行っている。これらの活動は、保護者をはじめとして地域住民へと広がり、地域の環境美化意識の向上に寄与している。</p> <p>さらに、河川の草刈りや親子清掃活動を行うとともに、八幡小学校では昼休みになると、生徒が小学校の敷地のすぐ側を流れる太田川に入って遊び、その中でごみ等に気がつくという習慣ができています。</p> <p>平成14年度からは「総合的な学習の時間」において環境学習を取り入れ、環境に関する講演会の開催やマイバック作りのワークショップなど、環境学習への取組みを積極的に行っており、祖父母学級において祖父母や地域住民に学習発表を行うなど、地域住民等への環境保全意識の普及啓発にも貢献している。</p>